

CJM REPORTER

カナディアン ジャパニーズ ミニストリー (CJM) 2007年春号

CJM

サニーサイドキャンプ

2007年 7月29日～8月4日



何処にも見られないファミリーキャンプ！

スピーカー：英語（未定）
日本語：吉田エドワード師
ウェスレーチャペル日本語部
- オンタリオ州トロント

詳細はデビット・タノまで

電話：403-242-5270

Eメール：mdtano@gmail.com

お早めにお申し込み下さい。

年次集会

2007年7月30日（月）

サニーサイドキャンプにて
どなたも歓迎致します！！

バイクフォーバイブルス セントラルライド2006

丸山ジョン

私の人生における最大の出来事の1つを、どうやってこの限られたスペースに表現するのが難しいものです。思えば金城ノリさんに出会い、クリスチャンとして養われ、特にスポーツミニストリーの訓練を受けたことがこの始まりでした。CJMキャンプでもディレクターとして何年も奉仕しました。第1テモテ4章7～8節が私に与えられている御言葉です。「敬虔のために自分を鍛練しなさい。肉体の鍛練もいくらかは有益ですが、今のいのちと未来のいのちが約束されている敬虔は、すべてに有益です。」

カナディアン・バイブルソサ
ety for Bibles”が、2006年7月2
発地点として開始され、同
トジョンで幕を閉じまし
に分けられ、各々自分の
を完走するのか選択する
た。私は9区間すべて
ととなり、1日平均し
行しました。このイベ
サイアティーの100周年
に、この100年の間に聖
きをしてくださった
を現す目的で行われまし
目標献金額でしたが、最終
めることが出来ました。

MB州プレイリー、ポータ
点まで走行した時に、地面
しまうかと思われるサイズ
バイクは壊れ、全治3週間
残りの走行をやむなく断念
争心の強いスポーツ家で
悔しくて仕方がなかった
様に会い、イエス様が私を変え
バイクライダー、メカニック、



エアティー主催の“Bike
日、BC州ビクトリアを出
年9月3日NF州のセン
た。コースが9区間
州を走るのか、全体
ことができまし
のコースを走るこ
て150～175kmを走
ントはバイブルソ
を記念すると共
書を配布する働
方々に感謝と敬意
た。5000万ドルが
的に5100万ドルを集

ジェ・ラにあと10kmの地
に空いた車でさえ入って
の穴にはまってしまい、
の怪我をしました。そして
することになりました。競
あった私は、以前だったら
ことでしょう。でも、イエス
てくさいました。
また資金調達の3つの面で私は

ツアーに登録していましたが、多くのサイクリストがおり、メカニックが技術的問題への対応に追われている現状が目に見え、飛び込みました。今思い返すと、神様は、私が自分本位にレースを完走することだけに焦点をあわせるのではなく、このツアーの一員として、他の人に仕えていくことの大切さを思い出させるために、この事故が起こるのを許されたのかもかもしれません。

カナダの広大さと多様性には驚かされました。神様が創造されたすべてのものの中で、なんて自分はちっぽけな存在なのだろうと思わされる一瞬でした。そしてツアーでいろいろな場所を訪れる中、ナザレン、プロテスタント、カトリックと、様々なグループの方々がサポートして下さり、キリストにあり、私達は1つの体なのだと思われ、本当に祝福されました。私達1人ひとりが神様から霊的な賜物をいただいています。それを用いてお互いに仕えあい、神様に栄光を返していくことはなんと素晴らしいでしょう。

このツアーのハイライトはNF州のセントジョン、シグナルヒルの山から見た大西洋の景色でした。聖書の中に出てくる重要な場所にも山がいくつもあります、その場所に立ったとき、まるでイエス様がこの景色を通して「よくやった。忠実な良いしもべよ。」と語りかけてくれているようでした。*



秋山賢牧師 真理夫人
創平君(8) 有紗ちゃん(6)

2004年6月よりCJMの宣教師としてレスブリッジに遣わされた私達。まもなく4年目を迎えます。たくさんの方々、また世界中の教会の皆様のお祈りと経済的

サポートにより、これまで

私達は宣教の働きに集中する事が許され、感謝の気持ちでいっぱいです。

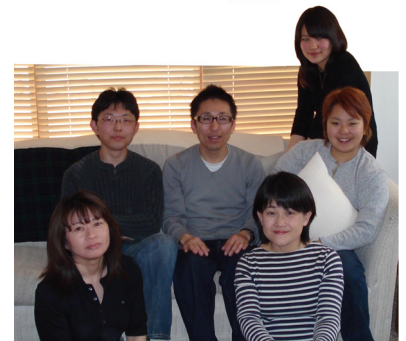
レスブリッジジャパニーズクリスチャンフェローシップ(LJCF)教会では、3月1日より新しい年度がスタートしました。今年のLJCF教会のテーマは、ヘブル12:2「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。」から「イエス様から目を離さない教会！」です。変わる事のないイエス・キリストの愛と愛のみこころから信仰の目を離すことがないように、いつも臨在の主を仰ぎ、信頼し、祈り、御言葉に聞き従っていくチャレンジをいただいています。この1年、イエス様にあって1つの家族である私達がさらに一致してイエス様の体にふさわしい、イエス様のような教会を目指すことが出来ますように、さらに私達の教会が、互いに祈りあい、励ましあいつつ、神

様の御心になう教会として歩いていくことができるようお祈り下さい。

教会では、10月より共に食事をし、賛美し、祈り、分かち合う「プレイズナイト」、誰でも参加できる「聖書を読む会」、またずっと祈ってきたキッズミニストーリーとして「ジョイキッズ」をスタートしました。LJCF教会の牧会に携わって3年。この地に根ざした教会として、またこの地で救われた若者を日本に送り出す教会として神様からの知恵と導きを

求めつつ、神様に、教会に、そしてこの地の日本人、日系人に喜んで仕える者でありたいと日々夫婦で祈っています。私達は、2005年12月に移民の申請をし、祈りつつ結果を待っています。

さらにレスブリッジ・ジャパニーズ・クリスチャン・フェローシップ教会の働きが前進し、そ



ジョイキッズクラブリーダー

して私達の働きが守られていきますように覚えてお祈りください。*

献金

秋山牧師ミニストーリーのサポート、また一般会計への献金は、下記にお送り下さい。

Brenda Ohara-Peters
669 Hillman Cres.,
Mississauga, ON L4Y 2Y1

Tel.: 905-949-4182
Email: bjobjo@aol.com

ニューウエストミンスター福音自由教会

【皆様のお祈りに支えられて】

中原牧師

お祈りと、お交わりを心から感謝いたします。神の御手にはいつも思わぬ、不思議な御計画があるものです。NWEFCは、ベテラン・フリーゼン師の引退にともない、新たな教会の働き人を求め祈ってまいりました。そして、今も継続中です。一見、このような不安定にも思われる時期に、一度も日本語部も英語部も、主日礼拝が途切れることなく守られ、主の御名がたたえられ、福音が語り続けられています。そして、この時期にしか起こらない祈り、願い、信仰の忍耐と主の恵みの再発見を経験しております。

「福音を宣べ伝えなさい。時が良くても、悪くてもしっかりやりなさい。」

- ・アルファコースを行いました。聖書に関心を持たれた求道者を対象に、引き続き「聖書の学び」を行っています。
- ・NWEFC日本語部で、初めて日本人を対象的に絞った伝道集会を行いました。はじめて教会に集ったと言う方々、関心を示し聖書の学びに参加なさっている方々をお迎えし、主をお伝えする喜びを頂きました。
- ・日本から語学の学びに来ている成年を対象に、Downtown聖書研究会を始めました。まだ小さなグループですが、「自分探し」にあぐねている若い方々を「みことば」を持って励まし、救いにお導きできればと願っています。
- ・バイリンガルの教会ですので、その特徴を生かした伝道の仕方を思案中です。

昨年の三月からみことばの奉仕に携わっています中原は、2004年、ちょっと休暇で来たつものカナダで主と教会に仕えることになり、自分の周りで起こる状況の変化の中で「なぜ、ここで？」と祈ってきました。そしてやっと、腑に落ちる答えを得た気持ちになりました。それは、世界のどこであっても日本語で福音を聞く必要のある方がおられる。また、私たちはどこであろうと「神の平和：シャローム」のために奉仕できる。と言う2点でした。(ページ3につづく)*

シャーブルズさんの思い出

シャーブルズさんは、BC州ケローナであった私達を導き養ってくださった存在の人でした。私をキリストに導い

さんがケローナからアルバータへと移った時、リッジウエイさんの働きをシャーブルズさんが受け継ぐことになりました。太平洋戦争は日本人に対する大きな偏見を築いており、2世の私達のために家庭を開放することは決して簡単なことではなかったでしょう。彼らの家は私達をすばらしく祝福してくださいました。彼らは私達2世と本当に心を1つにしてくれ、より多くの人を歓迎できるように、自らの犠牲を払って家

われ、娘のメーベルさんがいつもピアノを弾いてシュメントあり、ママシャーブルズさんは来た人は、この時を振り返り、シャーブルズさん宅はす。彼らの家は集会のある時だけでなく、いつてくれました。お茶を飲みながらママシャープでもらったのを覚えています。聖書学校に行くも5人が行きました。2世の子ども達のためにサプルズさんがすぐに協力してくださいました。横田プルズさんを通して救われました。そして後にも金銭的に余裕がなかったにもかかわらず、毎月さんはコーテニーキャンプ、ボウベリーキャンプ、を励ましてくれました。年配になってからも日本人と心をホームに住みました。この地上の家を多くの人に開放しみんなの霊的ママであり続けたシャーブルズさんは、今は天の家に迎え入れられ、彼女が生涯を通して仕え愛し続けた主とともにいます。*



で、クリスチャンとしてまだ駆け出しり、わたしたち多くにとって母親的存在してくれたマーガレット・リッジウエイ

くれました。毎週金曜日の集会の後にはリフレックみんなに振舞っていました。北川ノリーンさん彼女にとって家そのものだったと言っているも私達が行って話したいときに暖かく迎え入れルズさんと言葉を交わし、いいアドバイスをしことを進められ、私達のグループから少なくともンデースクールを始めようとした時も、シャースタン師はこのサンデースクールの中でシャープ私達が宣教師として奉仕することになったときサポートを送ってくださいました。ママシャーブルズサニーサイドキャンプでも、いつもそこにおいて私達ひとつにし、日本人高齢者のためにたてられた日の出

感謝のうちに 池ノ上 イワオ

(ページ2 『ニューウエストミンスター』つづき)
ここに来るまでに、自分の掘られた穴に対する再発見を促された事は言うまでもありません。「日本人は救われない。」「救われるのが難しい。」といくら言っても、事実日系クリスチャンが存在するのですから、あきらめる事はありません。私も日本人です。1年が経って、「異文化世界へ宣教する。」ための渡加ではなく、「文化も国語も同じにする民への伝道」である事をシミジミ感じ、「等身大の伝道・自分も目の高さでの人々との関わり」を心に留めているところです。さてさて、これからどうなりますか…、主に大いに期待いたしましょう！

「福音に触れ、福音に出会うために人々がやってきます。喜んで主をお伝えすることができますように。」皆さんの教会に、交わりにも主の祝福をお祈りしております。
栄光在主 *



私は同時に何冊もの本を読み進めるタイプの人間ですが、最近読んだ本のなかで「The Last Christian Generation (ジョシュ・マクドウェル 著)」に衝撃を受けました。その中で彼はこう言っています。私達の子どもが教会で育ち、サンデースクールに行ったのなら、その子たちは神を恐れる素晴らしいクリスチャンになり、高校また大学に行ってから信仰に堅くたち、良い悪いの分別がちゃんとなつようになる、その考えは正しいでしょうか？



金城ノリさん、ブランチ夫人
ノリさんは2000年よりCJMの
総理事です。

調査によると、教会で育った子ども達とそうでない子どもたちの実生活を比較してみた時、霊的なことにもモラルにおいても何の差もないという結果がでました。著者は、親や教会リーダーが真理の言葉を子ども達の内深くに叩き込むのに加え、自らがよい手本となることにより、生きて働かれる主を彼らが知り、また体験していく必要性を強調しています。
ユースはなくてはならない教会の部分であるだけでなく、この乾いた世の中に対し、生きて働かれる主を示していく大使でもあります。*

エドモントン日系キリスト教会

中野ユリ牧師

エドモントン教会の大きな変化は、別の会堂に引っ越したことです！ 昨年の12月から、シオン・バプテスト・コミュニティー教会において日曜礼拝を守っています。これまで28年以上に渡り、カバナント福音教会で礼拝をしてきましたが、車椅子使用可能な会堂が必要となり、今回の大移動を決定したわけです。新しい場所へ移ったことで、何だか“新鮮な”感じがしますし、教会再生への望みを先取りしているような感じもします。以前と同様、この会堂も借りているわけですが、シオン教会の皆さんは、私たちをととても温かく迎えてくださり、共にやっというお気持ちがよく伝わってきます。



シオンバプテスト教会
エドモントン日系キリスト教会の新たな会堂

このシオン教会に移って以来、我が教会もその一員である北米バプテスト連盟の諸教会との絆が一層深められています。おそらく最大の変化は、中野百合牧師にとって、他の牧師と接触する機会が増えたこと、また、正式な“執務室”が与えられ、仕事は

かどるようになったことかもしれません。今までのところ、とてもよい按配になっていると思います。

以前は、洗礼式を行うのに、他の会堂を借りなければなりませんでしたが、シオン教会に移ることで、普段礼拝を守っている場所で洗礼式も執り行うことが出来るようになったのは嬉しいことです。今年になってすぐ、1月14日に、山本愛さんの洗礼をお祝いすることが出来ました。愛さんの証しは、CJMレポート前々号の青年コーナーに掲載されていますが、クリスチャンホームで育った彼女は、サニーサイド・キャンプにおいて、自分個人の事としてキリストにお従いする決心をしたのです。そして、今は、どこでも主が導かれる所で、キリストのために生きていきたいと願っています。愛さんは日本へ帰国しますので、かの地においても、引き続きキリストの弟子としての訓練を受け、主のために用いられるようお祈りくだされば幸いです。*



山本愛さんの洗礼、中野牧師
(左) 2007年1月14日

トロント日系福音教会

戒崎レイ牧師 (英語部)

この半年間の教会の活動、また私達が取り組んでいるプロジェクトなどについて簡単にお話します。

2006年の11月にはトロント日系教会が協力し、「ジョイ・オブ・クリスマス」コンサートを行いました。この伝道を目的としたコンサートは、カトリック教会、合同教会、聖公会及びいくつかの福音的教会と、計8つの教会の協力で行われました。日本からの学生や、小さな子どもがいる日本人家族を対象とし、クリスチャンでない人が来やすい環境作りが心がけました。ジュノ賞も受賞している「トロント・マス・クワイヤー」をゲストに呼び、ナーサリーを用意するとともに、別室で4歳～10歳の子ども向けにクリスマスパーティーも行いました。多くの出費がありましたが、神様がその必要を知ってくださることに信頼し、入場料は無料でチケットを配布しました。実に神様は信頼に値する方です。私達の必要を上回る額の献金が集められました。福音教会の佐藤明男牧師がメッセージをしてくださり、神様がコンサートをすばらしいものにして下さいました。570人ほどの参加者があり、クリスマスパーティーには50人くらいの子どもが来てくれました。その参加者の約半数がクリスチャンであったと予想されています。

また、2007年の初めに、ユースグループ、及びカレッジ&キャリアのグループが新しいリーダーと共に活動を始めました。それぞれのグループが目的及びターゲットを明確に

かかえ、グループの人々が訓練されていくとともに、周りの人に届いて行くことも目的としています。



証をする柘植静さんはトロントマスクワイヤーのメンバーで先日洗礼を受けました。

そして、2007年3月18日に洗礼式が行われました。4人の受洗希望者が個々に、キリストとの出会いについて証して下さり、堂々とした信仰告白とともに洗礼をうけました。神様がこの4人に働きかけ、ご自身を示して下さいましたその証は私達にも力と喜びを与えてくれます。

最後、私達の教会堂建築計画は、未だ市からの建築許可が下りるのを待っているところです。しかしそれだけではなく、銀行でローンを組み必要な資金を調達することも大きな壁となって立ちはだかっています。現在は5月に建築を開始できることを目標にこのプロジェクトに取り組んでいますが、「主が家を建てるのでなければ、建てる者の働きはむなし。(詩篇127:1)」という御言葉をますます実感しています。この大きなプロジェクトを目の前にした私達のためにどうかお祈りください。*

コンファレンス—シアトルにて

福迫徹也牧師

「RJ Cに参加して」

2月15日(木)～18日(日)までシアトルで行われた第6回RJ C (Reaching Japanese for Christ Conference)に参加してきましたので、その報告を簡単にさせていただきます。今回は200名以上の参加者が北米の各地から与えられましたが、年々参加者も増えてきており、内容の充実した会議になってきています。今年は日本人伝道に関する30以上のワークショップが開かれました。毎年、この会議に参加するたびに感じることは、北米に住む多くのクリスチャンが北米に住む約50万人とも言われる日本人伝道のために熱心に祈り、奉仕していることです。

1年間に日本国内にいる日本人よりも、海外に住む日本人の方がクリスチャンになる数が多いという驚くべき報告があります。とりわけ、北米に住む日本人が福音を聞き、

教会に行く割合は、日本国内より30倍も高いと言われています。日本国内のクリスチャン人口が停滞している中で、日本国外の日本人伝道が日本のクリスチャン人口の成長の大きな助けになっています。RJ Cでは、日本人伝道のための学びだけでなく、各地から来る日本人伝道の働きに重荷を持つクリスチャンのネットワーク作りも積極的になされています。是非、CJM関係の方々も来年のRJ Cにご参加下さい。詳しくはRJ Cのホームページ www.rjcnetwork.org をご覧下さい。*



ロバートブラウン牧師
RJ Cコンファレンスにて

カルガリー—日系福音教会

ウェブサイト：www.calgarygospel.com

谷口洋一牧師（日本語部）

クリスマスバンケットでは、座るところもないほど、多くの方が来てくださり、イエスさまの御降誕をお祝いすることができました。カルガリーでは日本語学校が二つあります。一つは土曜日の補習校。日本の文部科学省のカリキュラムで勉強を進めています。もう一つは、金曜日の日本語学校。この学校は主に、こちらで生まれた2世の子供たちが、会話を中心として日本語を学んでいます。去年サニーサイドキャンプで救われた若者たちが、それぞれの学校に属していて、彼らの学校の友人たちをたくさん誘ってくれたことがこのバンケットの大きな祝福になりました。

ちなみに金曜日の日本人学校は200人近くの生徒数です。国際結婚をしている日本人の若いお母さんたちが、子供たちを連れてきています。彼女たちへの働きかけがますます必要になってきています。私たちの持っている家庭集会でも2箇所



チェスタミアークャンプ場での日本語部リトリート 2006年
スピーカーはシアトルの金田師

で、そのような若いお母さんたちの救いを覚えつつ、平日に集会を持っています。

また、今年新たに始めたいのは、シニアの方々をターゲットとした伝道活動です。カルガリーでは寿会という老人クラブがあり、日系会館で、定期的な集会があります。現在150人ほどのシニアの方々が集っています。私たちはなんとか、それらの1世の方々を救いを受けられることを願っています。今年はシニアの方々の聖書研究会が始められるように主に求めています。また、伝道活動のひとつとして、新たに、アルファコースを始めました。去年秋、初めてのコースが終了しました。ビデオによるキリスト教についてのベシクな大変よい学びなので、今年も第2回目を4月から始めます。



2006年のクリスマス礼拝にて谷口牧師が拵望さんの洗礼を行いました。

私たちの教会では今年も引き続き、パーパスドリブンチャーチ、5つの柱のもとに教会成長を願っています。現在教会内に6つのグループ活動があります。今はそれぞれのグループに牧師が参加し、リードしていますが、そのグループのリーダーたちが整えられ、それぞれのグループをリードし、牧師はリーダーの養成に集中できるようになることが次のステップです。*